

2/17 朝日

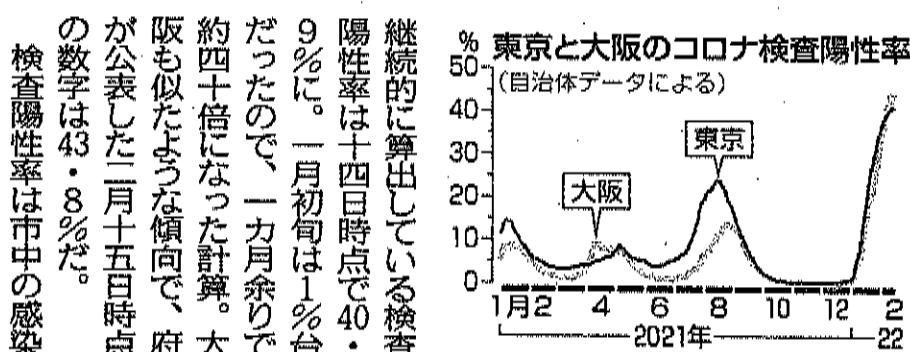
# ピーク越え判断早すぎた?

## 新規感染 前週比減ても

新型コロナウイルスの流行「第六波」は、新規感染者数の増加にブレーキがかかったように見える。しかし、東京などではPCR検査で陽性になつた人の割合（検査陽性率）が約40%と高いことから、専門家は検査が追い付いていない可能性を指摘。警戒を緩める判断は慎重にするべきだとしている。厚生労働省のまとめによると、十五日時点でも直近一週間の新規感染者数（全国）を前週と比べた値は〇・九。東京、大阪も「下回り、前週より減つた」と示す。

一方、検査陽性率の様相は大きく異なる。東京都が

## 東京・陽性率4割 検査不足の可能性



継続的に算出している検査陽性率は十四日時点で40・9%に。一月初旬は1%台（全国）を前週と比べた値は〇・九。東京、大阪も「下回り、前週より減つた」と示す。

一方、検査陽性率の様相は大きく異なる。東京都が

レベルがどの程度かを示すと同時に、検査数が十分かどうかを推定する目安にもなる。

一般に検査数を増やせば陽性率は下がるため、高い陽性率は、把握し切れていない感染者者が相当数いる可能性を示すといつ。

世界保健機関（WHO）は二〇二〇年、国や地域が感染を制御できていると判断する目安として、検査陽性率5%未満との値を示した。英オックスフォード大

学

の研究者らが運営する「ア

ーツ」によるところによると、既にコロ

ナ関連の規制を緩和してい

ても陽性率が高止まりする

「感染者の数の伸びが鈍化し

て感染拡大は止まつていないこ

とになる」として、今後も警戒が必要だと訴えてい

ている。

東京や大阪の検査陽性率について「検査が追い付いておらず、捉え切れていない感染者がかなりいる可能

性がある」とするの大坂

健康安全基盤研究所の本村

和嗣・公衆衛生部長だ。

厚労省に助言する専門家

組織も、検査の目詰まりな

どにより、公表されている

感染着数が実態とかけ離れ

ている可能性が指摘されて

いるとの懸念を八日の会合

で示した。

本村さんは、現状でピークを越えたかどうかの判断は慎重にすべきだと指摘。

「感染者の数の伸びが鈍化しても陽性率が高止まりする」となる」として、今後も警戒が必要だと訴えてい

たので、一ヶ月余りで約四十倍になつた計算。大阪も似たような傾向で、府

の研究者らが運営する「ア

ーツ」によるところによると、既にコロ

ナ関連の規制を緩和してい

ても陽性率が高止まりする

「感染者の数の伸びが鈍化し

て感染拡大は止まつていないこ

とになる」として、今後も警戒が必要だと訴えてい

る。